

P 目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）	
視点1 「学習意欲の向上」	視点2 「言語活動の充実」
<ul style="list-style-type: none"> ・自らの気づきや考え、学習経験から、主体的に学習課題を見つけ、解決の見通しをもちながら、自ら進んで学習課題に取り組もうとしている。 ・授業で分かったことやできたことをふり返り、課題解決の達成感をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由や根拠を明らかにし、自分の言葉でわかりやすく説明している。 ・自分の考えをもち、学び合いによって考えを広げたり深めたりしながら、よりよい考えにたどりつこうとしている。
<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史単元を自分事として捉え、意欲をもちながら課題解決に向かわせるための資料の提示や発問を工夫すること。（授業者） ・資料を読み取り、気づいたことや疑問から自ら学習問題を作り、見通しをもって意欲的に課題解決しようとする。（学習者） 	<p>【現時点での課題（授業者・学習者）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容や方法を吟味し、自分の考えを深めるための話し合い活動を効果的に設定すること。（授業者） ・自分の考えを相手に分かりやすく説明したり、友だちの話を聞いて自分の考えを深めたりすること。（学習者）

P D 6 学年 社会科 単元指導計画		
単元名 日本の歴史 小単元名 9 近代国家を目指して 小学社会6年（教育出版）	日 時 令和5年10月6日（金）5校時 対象学級 達曽部小 6年1組（8名） 授業者 教諭 谷村 薫	
1 単元の目標 （何ができるようになるか）		
〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕	「学びに向かう力、人間性等」
日本の国力が充実し国際的地位が向上したことについて理解するとともに、絵画・写真資料や文化財、地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。	条約改正に向けた取組の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	条約改正に向けた取組について主体的に問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。
2 単元で取り上げる「課題解決的な言語活動」 （何を通して育成するのか）		
資料から読み取ったことや話し合いを通して、分かったことや自分なりに考えたことを根拠を明らかにして整理し、まとめる。		
3 単元の評価規準 （何が身に付いたか）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①世の中の様子、人物のはたらきや代表的な文化遺産などについて、遺産や文化財、地図帳や年表などの資料で調べ、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などを	①世の中の様子などに着目して、問いを見だし、条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、科学の発展などについて考え、表現している。 ②条約改正、大日本帝国憲法の発	①条約改正に向けた取り組みについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

<p>理解している。</p> <p>②調べたことを年表やなどにまとめ、日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。</p>	<p>布、日清・日露の戦争、科学の発展などを関連づけたり統合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</p>	
4 「2つの視点」による授業改善 (どのように学ぶか)		
視点1 「学習意欲の向上」	視点2 「言語活動の充実」	
<p>①本時の学習問題を把握する場面において、単元全体の学習問題解決にせまるための本時の問題を自ら考えることで、学習意欲の向上を図る。</p> <p>②既習事項から予想をたて、本時の調べ学習の見通しをもたせる。</p>	<p>課題解決の場面において、学び合いによって自分の考えをより深いものにするために、資料や既習事項もとに根拠をあきらかにして考えを発表させ、話し合う。</p>	

5 単元の指導と評価の計画（全9時間）		（単元をどうデザインするか）	
時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	<p>ノルマントン号事件と条約改正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約の影響や、政府・国民の考えを調べ、条約改正までの動きに興味をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約についてはどのような点が不平等だったのか具体的に確認する。 ・資料ウを使って、政策だけではなく、人々の暮らしも西洋風になっていったことを振り返る。また、それは日本が西洋に近づいたという、外国へのアピールにつながっていたことも捉えさせる。 	<p>【思判表】ノルマントン号事件の経緯などから疑問をもち、不平等条約の改正を人々が願っていたことを考え、表現している。（発言・ノート）</p>
2	<p>学習問題をつくり、調べる計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの年表の読み取りから、不平等条約について学習問題をつくり、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・条約改正までにかかった期間にも着目させ、条約の改正に苦戦したことを捉えさせる。 ・これまでに学習したことも活用して、根拠をもって予想を立てられるようにする。 	<p>【思判表】不平等条約の改正について問いを見出し、学習問題として表現している。（発言・ノート）</p> <p>【態】学習問題について予想や学習計画を立て、主体的に追究しようとしている。（発言・行動・ノート）</p>
	<p>学習問題：不平等条約の改正は、どのようにして実現されたのだろうか</p>		
3 本 時	<p>自由民権運動が広まる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動や西南戦争について調べ、人々がどのような政治を期待していたのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料アから、政府と士族の間で激しい戦争が行われていたことをおさえ、起こった時期や場所、概要などを調べる。 ・資料ウが演説会の様子を描いていることを伝え、人々の政府への批判の手段が武力から言論に移っていったことを確認する。 	<p>【知技】国民の意見を政治に取り入れることを求めて、自由民権運動が起こったことを理解している。（発言・ノート）</p>
4	<p>国会が開かれる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の条文や大日本帝国憲法下での政治の仕組み、制定過程から、明治政府が目指した政治のあり方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治単元の学習を振り返り、現在は憲法に基づいて政治が行われていることや、選挙で国民の代表を決めて国会を開いていることを確認する。 ・なぜ、皇帝の権限が強いドイツの憲法を参考にしたのかを考えさせ、天皇中心の国づくりを目指したことを捉えさせる。 	<p>【知技】大日本帝国憲法の内容や国会を開いたことから、明治政府が目指した政治の考え方を捉えている。（発言・ノート）</p>

5	<p>日清・日露の戦い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの戦争の様子と結果を調べ、日本と周りの国々との関係がどのように変わったのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの手引き」を活用しながら、風刺画を読み取る。地図帳でそれぞれの国の場所を確認し、朝鮮を挟んで日本と中国・ロシアが位置していることを捉え、防衛上、朝鮮が重要な場所であったことをおさえる。 	<p>【知技】 二つの戦争の経緯や結果から、日本と世界の国々との関係がどのように変化したか捉えている。</p> <p>(発言・ノート)</p>
6	<p>日露戦争後の日本と世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日露戦争の影響や朝鮮併合の経緯を調べ、その意義について多面的に考えるとともに、不平等条約が改正された背景や理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポーツマス条約で日本が賠償金を得られなかったことをおさえる。負担に耐えたにもかかわらず、賠償金が得られなかったことについて国民の落胆を想像させる。 ・地図エで戦争によって領土が増えていったことを確認する。その後、「朝鮮併合後」の地図を示し、戦争以外の理由で朝鮮半島が日本の一部とされ、植民地となったことを捉えさせる。 	<p>【知技】 日本と外国との関係の変化やその影響をさまざまな立場から多面的に捉えている。</p> <p>(発言・ノート)</p>
7	<p>産業の発展と世界で活躍する人々</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業がどのように発達していったのかを調べ、その影響について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ・カから、戦争の前後で工場数や労働者数増えていることとともに、工場での女性の労働者数が総労働者数の半数以上を占めていることを読み取らせ、産業の発展を支えた女性労働者の存在を捉えさせる。 	<p>【知技】 日本の産業や科学の発展から、国力が充実したことや国際社会での地位が向上したことを理解している</p> <p>(発言・ノート)</p>
8	<p>暮らしと社会の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性運動や全国水平社、普通選挙運動について調べ、人々が求めていた社会の在り方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返り、産業の発展と都市の人口増加や生活の変化を関連付けて捉えられるようにする。 ・人々の願いや訴えに注目し、それぞれの運動について調べる。明治政府がつくった身分制度や国会の仕組みなど既習の事項を確認しながら、運動に参加した人々の思いを捉えさせる。 	<p>【知技】 暮らしの変化とともに人々が民主主義を求める社会に変化したことを捉えている</p> <p>(発言・ノート)</p>
9	<p>まとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習してきた、条約改正に向けた明治政府の動きをまとめ、どのように条約改正が達成されたかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に示されたキーワード以外にも子どもが大切だと思った言葉があった場合にはそれも取り上げる。 	<p>【思判表】 明治時代の政治や社会の変化と条約改正を関連付け、日本の国力や国際社会での地位の向上を考え、表現している。</p> <p>(発言・ノート)</p>

	<p>全国の多くの人々が国民の政治への参加を求めて自由民権運動を行い、政府は国会の開設を約束した。</p>	<p>【知技】国民の意見を政治に取り入れることを求めて自由民権運動が起こったことを捉えている。</p>
<p>終末10分</p>	<p>7 学習を振り返る。</p> <p>7 次時の問題を確認する</p>	<p>【視点3：学習の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習問題のまとめだけでなく、単元の問題と本時のかわりについても意識させながら振り返りをさせ、学びを実感させるとともに次時への意欲をもたせる。 <p>予想される振り返り：①西南戦争以降、武力ではなく言論で政府への要求を訴える自由民権運動が全国に広まり、国は、国会を開くことを約束した。 ②〇〇さんが、「～～」とっていて、説得力があった。 ③次は、国会がどのように開かれたのか調べたい。</p>

7 板書計画等 (学びの可視化をどうデザインするか)

10/6 近代国家を目ざして

武力による反乱がなくなる中で、政治はどのように変わっていったのだろう

西南戦争 政府の改革に不満をもつ士族たちの反乱

↓

政府軍におさえられる

↓

武力から言論へ

自由民権運動 (国民の負担減・政治参加を求める運動)

- ・板垣退助らが国会開設をうったえる意見書を政府に提出
- ・全国に広がる 都市の商工業者
村の有力な農民も
女性も権利をうったえる
- ・全国から国会開設を求める署名が提出される

↓

1881年 政府は1890年に国会を開くことを約束
板垣退助や大隈重信は政党を作る

自由民権運動の演説会

全国の多くの人々が国民の政治参加を求め、自由民権運動を行い、国会の開設が約束された。

国会は開設されたのか？

目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）

視点1 「学習意欲の向上」	視点2 「言語活動の充実」
①本時の学習問題を把握する場面において、単元全体の学習問題解決にせまるための本時の問題を自ら考えることで、学習意欲の向上を図る。 ②既習事項から予想をたて、本時の調べ学習の見通しをもたせる。	課題解決の場面において、学び合いによって自分の考えをより深いものにするために、資料や既習事項をもとに根拠をあきらかにして考えを発表させ、話し合う。
【協議や助言の内容】 ・学習問題や学習計画を自分たちで立てたことにより、自分事として課題をとらえ学習意欲の向上につながった。 ・問いかけると次々と発言する児童が多かったが、学習課題から逸れないよう切り返しの配慮があり効果的だった。	【協議や助言の内容】 ・グループでの活動や ICT 活用など児童同士で学び合う時間も取れると、学びにより深まりや広がりが見られると感じた。 ・児童が安心して考えを話せる仕組みがたくさん用意されていた。
【本単元を終えての成果（授業者・学習者）】 ・児童の思いをくみ上げた単元構想が、学習意欲の向上につながった。	【本単元を終えての成果（授業者・学習者）】 ・考えさせることの他に意見を交流させるなど思考に深まりをもたせることができた。
【授業者所感・今後の実践に向けて】 ・歴史学習は出てくる用語も多く、どの資料をどのように活用すればよいか難しさを感じた。 ・振り返りの場面では、キーワードを意識させることで自分たちでまとめることができたのは成果だと思った。	